

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：34523

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2015～2019

課題番号：15H01760

研究課題名（和文）デザイン教育史の国際的比較研究 ディセーニョからメディアテクノロジーの現在まで

研究課題名（英文）Comparative Study of the History of Art and Design Education

研究代表者

藤田 治彦（FUJITA, HARUHIKO）

神戸芸術工科大学・芸術工学部・教授

研究者番号：00173435

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 30,500,000円

研究成果の概要（和文）：絵画、彫刻、建築、各種工芸やさまざまな造形芸術を含む広義のデザイン教育の歴史を、おもに西洋を専門とする研究代表者と14名の研究分担者によって調査、研究した。歴史的に重要な西欧が本研究の中心となったが、研究代表者はその他の地域も調査し、最終研究報告書にはロシア、中南米、アジアの重要な教育機関の歴史も含めることができた。本研究以前に行われていた、Nikolaus Pevsner による研究、Academies of Art は重要だが、ロシアや建築教育史は含めることができていなかった。本研究では、概説でロシアの歴史を含め、建築教育の歴史も、スペイン・ポルトガルの独自性を含め、記述することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究に先立つ関連著書は、ニコラウス・ベヴスナーが1940年に出版した『美術アカデミーの歴史：過去と現在』で非常に重要であったが、ベヴスナー自身、ロシアと建築教育の歴史は含めることができなかったと明記し、反省していた。本研究では、概説ではあるがロシアの歴史も、さらに建築教育の歴史も含めることができた。

本研究のメンバーは、研究代表者と研究分担者を含めて、おもに西洋関係の研究者なので、アメリカ合衆国を含む西洋、とくに西欧の内容が充実している。しかし、研究代表者は、さらに中南米やアジアの、建築も含む重要な芸術デザイン教育機関をも調査し、最終研究報告書には、それらも概要ではあるが、含めることができた。

研究成果の概要（英文）：The history of design education in a broad sense, including painting, sculpture, architecture, various crafts, and various arts, was investigated and studied by a principal investigator who mainly specializes in the West and fourteen research co-workers. Although historically important Western Europe has been the center of this study, the principal investigator has also investigated other regions and the final research report could include the history of important educational institutions in Russia, Latin America and Asia. It was a work by Nikolaus Pevsner, the Academies of Art: Past and Present, which preceded this study, was important, but could not include Russia or history of architectural education. This study was able to describe the history of architectural education, including a history of art education in Russia in the outline, including the uniqueness of architectural education in Portugal and Spain in the sixteenth, seventeenth and eighteenth centuries.

研究分野：美学・美術史・芸術学

キーワード：デザイン 絵画 彫刻 建築 工芸 世界の教育機関 アカデミー 教育史

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景に含まれていた関連研究、関連書籍は、美術史家・建築史家のニコラウス・ペヴスナー (Nikolaus Pevsner, 1902-1983) が 1940 年に英国で出版した『美術アカデミーの歴史：過去と現在 *Academies of Art: Past and Present*』で、非常に重要な研究書であった。それは世界で最初の本格的な美術教育の歴史の研究と執筆であった。ペヴスナーはヨーロッパ諸国の主要都市にある重要な美術アカデミーや美術学校に、当時、彼自身が研究活動を展開していたドイツから歴史的資料の送付を依頼し、ドイツ各地の美術教育機関や関連資料も踏まえて研究をまとめ、ユダヤ系の本人がイギリスに移動後、自身の重要研究書籍のひとつとして、ケンブリッジ大学出版局から出版したのが『美術アカデミーの歴史：過去と現在』であった。

ペヴスナーの研究の中心となったのは 16～17 世紀のフィレンツェとローマの教育機関を代表とするイタリア各地の素描アカデミー、17 世紀創設のフランスの王立絵画彫刻アカデミー、そしてフランスやドイツ語圏などを中心とする 18～19 世紀の欧州各国の美術アカデミーの歴史である。そして、最終的には、ドイツ各地の工芸学校、イギリスの官立デザイン学校やアーツ・アンド・クラフツ中央学校などを経て、1919 年にヴァイマルに創設され、1925 年に Dessau に移転して新たな展開をした造形芸術教育機関、バウハウス等である。『美術アカデミーの歴史：過去と現在』は、16 世紀に創設されたフィレンツェとローマの素描アカデミーから 20 世紀に創設されたバウハウスにまで至る、大規模で大胆な内容のヨーロッパの造形芸術教育機関の歴史の研究であった。

但し、『美術アカデミーの歴史：過去と現在』でペヴスナー自身は、ロシアの美術教育と世界各地の建築教育の歴史は含めることができなかつたと明記し、反省していた。その反省をも踏まえ、16 世紀のイタリアから 21 世紀の現在の世界に至る「広義のデザイン教育の歴史」を科研・基盤研究 (A) で 5 年間費やして調査研究しようと考えた。「広義のデザイン教育の歴史」というのは、別な表現では「美術教育とデザイン教育の歴史」あるいは「美術・建築・デザイン教育の歴史」とすることもできる。ペヴスナー自身も上記の著書名で、16 世紀創設のイタリアの素描アカデミーから 20 世紀初めのバウハウスまでの歴史をまとめているように、「美術アカデミーの歴史」としても「デザイン・アカデミーの歴史」としても、広義の「美術 (アート)」や広義の「デザイン」の説明を加えれば、研究テーマとしては適切だと考えた。

2. 研究の目的

現在、デザイン教育は新興国を中心に重要性を急速に高め、中国を筆頭に驚異的な数のデザイン部門が各地の大学に開設されている。数の上では及ばないが、先進国でも、社会の変化、デザイン概念の拡大、デジタルメディア技術の進歩等に伴い、種々の改革が試みられている。このようにデザイン教育は世界的発展を続けているが、過去の歴史の再確認と将来の大きな展望に欠けている。

そのような展望に資するため、本研究は、バウハウスとその前後だけを扱う「狭義のデザイン」教育の歴史ではなく、16 世紀イタリアのディセーニョ (素描) 教育から、フランスの Dessau 中心の美術教育、その後、それに対するバウハウス等を経て、メディアテクノロジー主導の現代 (21 世紀初頭) の教育まで、建築や都市計画をも視野に入れた「広義のデザイン」教育の歴史を、各言語文化の専門家の協力により総合的に比較研究しようと考えた。

ペヴスナーはロシアの美術教育と各国の建築教育の歴史は含めることができなかつたと『美術アカデミーの歴史：過去と現在』に明記していたが、同書はある意味でヨーロッパの美術教育とデザイン教育に限定した歴史だったとも言える。日本を含むアジアの関連教育史の調査などはまったく行われていなかっただけでなく、南北アメリカやオセアニアの教育史もほとんど含まれていなかった。確かにアメリカ合衆国での美術教育の始まりは、スペイン植民地時代のメキシコにおける美術アカデミーの創設よりも遅いが、アメリカ合衆国各地の 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての美術教育・デザイン教育の展開は重要である。大英帝国の一部とも言えるカナダやオーストラリアでの教育展開も興味深い。

本研究では、ペヴスナー自身が記したように、『美術アカデミーの歴史：過去と現在』には含まれていなかったロシアと建築教育も含めるだけでなく、同書にほとんど扱われていなかった南北アメリカ、オセアニア、そして、できればアジア各国の歴史も含めて比較研究したいと考えた。実際には、日本各地の重要な美術史・建築史・デザイン史研究者に協力を求めても、調査研究に含めることのできない国や教育機関は多い。したがって、研究代表者と研究分担者はそれぞれが専門とする国や地域の調査研究を行い、全研究者の専門領域に含まれない国の重要教育機関は、研究代表者ができる限り訪問調査すべきであろうと考えた。

本研究の目的は、ペヴスナーの『美術アカデミーの歴史：過去と現在』や、その後、20 世紀に出版された関連研究を踏まえ、調査研究対象を 21 世紀初頭まで広げるとともに、できるだけ多くの国や地域を調査し、主要国、主要教育機関を中心としながらも、周辺諸国の造形芸術教育の歴史を加えて研究を行うことである。

3. 研究の方法

本研究の方法の特徴は、ペヴスナーの『美術アカデミーの歴史：過去と現在』を踏まえ、西洋の主要教育機関を重視するとともに、ペヴスナーがほとんど研究、執筆しなかった諸国(ロシア、南北アメリカ、オセアニア、アジアの各国等)の調査研究も含めることである。もうひとつの本研究の方法の特徴は、関連施設の歴史的文献を入手しての調査研究だけではなく、実際に、世界各地の重要な教育機関を訪問して調査することである。ペヴスナーが研究していた時代(1930年代)には世界各国を訪問することは容易ではなかったが、現在では、さまざまな国の重要な教育機関を訪問して調査することは可能である。

本研究メンバー(研究代表者、研究分担者)は原則的に各自が対象とする地域で調査を行う。研究代表者のおもな分担地域は英語文化圏だが、本研究にとって重要なイタリア、フランス、ドイツ、スペイン等は、それらの国々の研究分担者と協力して調査研究を進める。研究全体の中心となる、イタリアに発し、フランスを経てイギリスに至る、ヨーロッパのデザイン教育の主要な流れの再確認と新たな調査にも力を入れる。

研究分担者がおもな中心とする研究地域は、イタリア、フランス語圏(フランス・スイス)、ドイツ語圏(ドイツ・オーストリア・スイス)、英語圏(英国・アメリカ合衆国・オーストラリア)で、ポーランド・ハンガリーなどの東欧圏の一部も研究対象になった。但し、やはり重要な、現在のベルギーやオランダを担当できる研究分担者は現れず、研究代表者が両国の重要教育機関を訪問して調査した。また、アジア諸国を調査できる研究分担者を本研究に含めることは困難なので、アジアの主要国の重要な教育機関も数校、研究代表者が訪問して調査することにした。

もうひとつ研究方法について記すならば、この科研によって開催したACDHTアジア・デザイン史論国際会議(Asian Conference of Design History and Theory)である。これは研究発表の会議であるが、同国際会議で国内外の研究者と意見交換が可能であり、重要な研究方法のひとつと記すことができる。第1回アジア・デザイン史論国際会議を2015年10月に大阪大学で開催し、それ以前に第1回の海外調査を実施できた本科研の研究メンバーは、その調査研究報告を行う。同国際会議は「バウハウス前後のデザイン教育 Design Education before/after the Bauhaus」をテーマとして開催され、本科研メンバー以外の国内外のデザイン史論研究者にも呼びかけ、同分野の国際的な研究交流の場とすることができた。第1回アジア・デザイン史論国際会議は英語で行われ、英文の国際会議論集を刊行し、その論集に掲載されたさまざまな論文を次年度以降の調査等に積極的に生かすことができた。第2回は2017年9月に東京の津田塾大学で開催、第3回は2019年8月末、9月初めに九州産業大学で開催した。

4. 研究成果

絵画、彫刻、建築、各種工芸やさまざまな造形芸術を含む広義のデザイン教育の歴史を、おもに西洋を専門とする研究代表者と14名の研究分担者によって調査研究した。研究成果は2年に一度開催したACDHTアジア・デザイン史論国際会議の報告書に掲載されている。2015年に大阪大学で開催された第1回は『Design Education before/after the Bauhaus(バウハウス前後のデザイン教育)』として出版された。2017年に津田塾大学で開催された第2回は『Design Education beyond Boundaries(境界を越えたデザイン教育)』として出版された。2019年に九州産業大学で開催された第3回は、本科研の最終研究報告書に出版予算を使用すべきなので、ACDHTのウェブ報告書『Nature and Design(自然とデザイン)』として掲載された(各回すべてウェブ報告書としても掲載され、本科研以外の国内外の研究者の論文も掲載されている)。

歴史的に重要な西欧が本研究の中心となったが、研究代表者はその他の地域も調査し、最終研究報告書『デザイン教育史の国際的比較研究：ディセーニョからメディアテクノロジーの現在まで』にはロシア、中南米、アジアの重要な教育機関の歴史もいくつか含めることができた。本研究以前に行われていたペヴスナーによる『美術アカデミーの歴史：過去と現在』は非常に重要だが、ロシアや建築教育史は含めることができていなかった。本研究では、概説でロシアの歴史を含め、建築教育の歴史も、スペイン・ポルトガルの独自性を含め、記述することができた。

『デザイン教育史の国際的比較研究：ディセーニョからメディアテクノロジーの現在まで』は、研究代表者の序論「ディセーニョ/デッサン・アカデミーから造形芸術教育まで」に始まり、おもに執筆内容の時代順に以下のように掲載している。池上英洋「イタリアの美術・デザイン教育：ディセーニョの理論とアカデミア」、加嶋章博「18世紀王立バルセロナ軍事数学アカデミーを通して見たスペインの都市計画教育」、橋本啓子「フランスの建築デザイン教育」、朝倉三枝「ポール・ボワレのエコール・マルティエヌ」、高木陽子「フランスにおけるデザイン教育の伝統と革新：国立高等装飾美術学校の事例研究」、藤田治彦「イングランドの美術・技術・デザイン教育の歴史と英語文化圏」、近藤存志「スコットランド・デザイン教育史：ポスト議会統合時代の社会・産業発展とデザイン教育を中心に」、菅靖子「オーストラリアのデザイン教育の歩み」、加須屋明子「ポーランドの美術・デザイン教育史」、井口壽乃「アメリカ合衆国のデザイン教育史：1930年代から40年代のニューヨークとシカゴを中心に」、高安啓介「ドイツ造形教育史の視点」、天貝義教「ウィーン応用美術大学の改革」。研究代表者は「結び」に簡潔に、フィリピン、インド、日本、トルコ、ベトナム、中国等、アジアの造形芸術教育の歴史的特徴についても記載した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 16件／うち国際共著 10件／うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 Akihiro Kashima	4. 巻 18
2. 論文標題 A Perspective of "Diversity Creation" and "Expandability": Another Interpretation on Spanish Colonial Town Planning	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The 18th IPHS Conference: Looking at the World History of Planning, Proceedings, International Planning History Society	6. 最初と最後の頁 685-692
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.7480/iphs.2018.1.2720	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Yoshinori Amagai	4. 巻 11
2. 論文標題 Japanese concepts of Modern Design in the 1950s: With Special Reference to Isamu Kenmochi and Masaru Katsuie	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the International Conference of Design History and Design Studies	6. 最初と最後の頁 81-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://www.ub.edu/icdhs/barcelona10+1/documents-documentos	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Yasuko Suga	4. 巻 39
2. 論文標題 The Didactic Landscape "Branded heterotopia: Omiya Bonsai Village in Japan, from 1925 to the present day"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in the History of Gardens & Designed Landscapes	6. 最初と最後の頁 77-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Toshino Iguchi	4. 巻 11
2. 論文標題 Design for Militarization in Wartime; Bauhausler Immigrants in the US	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the International Conference of Design History and Design Studies	6. 最初と最後の頁 287 - 291
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://www.ub.edu/icdhs/barcelona10+1/documents-documentos	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Haruhiko Fujita	4. 巻 2
2. 論文標題 Art and Design Education in Nineteenth Century India: British Background and Development in South Asia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ACDHT Journal	6. 最初と最後の頁 109-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.acdht.com/journal_2017.html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Keisuke Takayasu	4. 巻 2
2. 論文標題 Criticism of the Bauhaus Concept in the Ulm School of Design	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ACDHT Journal	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.acdht.com/journal_2017.html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akihiro Kashima	4. 巻 2
2. 論文標題 City Planning and Architectural Education in the Establishment of the Academies in 18th-Century Soain	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ACDHT Journal	6. 最初と最後の頁 41-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.acdht.com/journal_2017.html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ariyuki Kondo	4. 巻 2
2. 論文標題 Scottish Challenge in Design Education: The Trustees Drawing Academy's Pedagogical Vision for Post-Union Scotland	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ACDHT Journal	6. 最初と最後の頁 63-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.acdht.com/journal_2017.html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akiko Kasuya	4. 巻 2
2. 論文標題 An Open Design Theory for Society: From Osker Hansen's "Open Form" to Grzegorz Kowalski's Common Space, Private Space"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ACDHT Journal	6. 最初と最後の頁 89-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.acdht.com/journal_2017.html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasuko Suga and Megha Rajguru	4. 巻 2
2. 論文標題 Kohei Sugiura and Kirti Trivedi: Capturing Asia as Transnational in Four Dimensions	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ACDHT Journal	6. 最初と最後の頁 131-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.acdht.com/journal_2017.html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshinori Amagai	4. 巻 1
2. 論文標題 Pioneers of Japanese Design Education from Bijutsu to kogei Zuan in the Maiji Era	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of the Asian Conference of Design History and Theory	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://acdht.com/journal_2016.html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hidehiro Ikegami	4. 巻 1
2. 論文標題 Kosei and Zokei education: Bauhaus and the Formation of Kuwasawa Design School	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of the Asian Conference of Design History and Theory	6. 最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://acdht.com/journal_2016.html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Keisuke Takayasu	4. 巻 1
2. 論文標題 The Development of Design Education for Children in Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of the Asian Conference of Design History and Theory	6. 最初と最後の頁 95-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://acdht.com/journal_2016.html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshinori Amagai	4. 巻 1
2. 論文標題 Pioneers of Japanese Design Education from Bijutsu to Kogyo Zuan in the Meiji Era	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of the Asian Conference of Design History and Theory	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) acdht.com/journal_2016.html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hidehiro Ikegami	4. 巻 1
2. 論文標題 Bauhaus and the Formation of Kuwasawa Design School	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of the Asian Conference of Design History and Theory	6. 最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) acdht.com/journal_2016.html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Keisuke Takayasu	4. 巻 1
2. 論文標題 The Development of Design Education for Children in Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of the Asian Conference of Design History and Theory	6. 最初と最後の頁 95-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) acdht.com/journal_2016.html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 10件）

1. 発表者名 Yoshinori Amagai
2. 発表標題 Japanese concepts of Modern Design in the 1950s: With Special Reference to Isamu Kenmochi and Masaru Katsuie
3. 学会等名 International Conference of Design History and Design Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshino Iguchi
2. 発表標題 Design for Militarization in Wartime; Bauhausler Immigrants in the US
3. 学会等名 International Conference of Design History and Design Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Haruhiko Fujita
2. 発表標題 Birth of asian 'Design': Origins of the Chinese word 'sheji' and the Japanese word 'sekkei'
3. 学会等名 10th International Conference of Design History and Design Studies (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Keisuke Takayasu
2. 発表標題 The double meaning of "Modern Architecture" in the Japanese context
3. 学会等名 10th International Conference of Design History and Design Studies (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Toshino Iguchi
2. 発表標題 Visual design in colonial Taiwan during Japanese rule
3. 学会等名 10th International Conference of Design History and Design Studies (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yasuko Suga
2. 発表標題 Craft and gender in colonial modernity
3. 学会等名 10th International Conference of Design History and Design Studies (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yoshinori Amagai
2. 発表標題 Japanese concept of Kogei in the period between the First World War and the Second World War
3. 学会等名 10th International Conference of Design History and Design Studies (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yoshinori Amagai
2. 発表標題 Pioneers of Japanese Design Education from Bijutsu to Kogei Zuan in the Meiji Era
3. 学会等名 The First Asian Conference of Design History and Theory (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Hidehiro Ikegami
2. 発表標題 Bauhaus and the Formation of Kuwasawa Design School
3. 学会等名 The First Asian Conference of Design History and Theory (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Keisuke Takayasu
2. 発表標題 The Development of Design Education for Children in Japan
3. 学会等名 The First Asian Conference of Design History and Theory (国際学会)
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 池上英洋	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 608
3. 書名 レオナルド・ダ・ヴィンチ	

1. 著者名 藤田治彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京国立近代美術館	5. 総ページ数 12
3. 書名 マルセル・プロイヤーの家具	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Asian Conference of Design History and Theory
<http://acdht.com/>
 ACDHT 2015 OSAKA
http://www.acdht.com/archive/2015/journal_2016.html
 ACDHT 2017 TOKYO
http://www.acdht.com/journal_2017.html
 Asian Conference of Design History and Theory
<http://acdht.com/>
 The Asian Conference of Design History and Theory
<http://www.acdht.com/journal.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井口 壽乃 (IGUCHI TOSHINO) (00305814)	埼玉大学・人文社会科学研究科・教授 (12401)	
研究分担者	近藤 存志 (KONDO ARIYUKI) (00323288)	フェリス学院大学・文学部・教授 (32711)	
研究分担者	川島 洋一 (KAWASHIMA YOICHI) (00342486)	福井工業大学・環境情報学部・教授 (33401)	
研究分担者	池上 英洋 (IKEGAMI HIDESHIRO) (00409806)	東京造形大学・造形学部・教授 (32656)	
研究分担者	加須屋 明子 (KASUYA AKIKO) (10231721)	京都市立芸術大学・美術学部 / 美術研究科・教授 (24301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井田 靖子 (菅靖子) (IDA YASUKO) (20312910)	津田塾大学・学芸学部・教授 (32642)	
研究分担者	橋本 啓子 (HASHIMOTO KEIKO) (20610570)	近畿大学・建築学部・准教授 (34419)	
研究分担者	天貝 義教 (AMAGAI YOSHINORI) (30279533)	秋田公立美術大学・美術学部・教授 (21403)	
研究分担者	高木 陽子 (TAKAGI YOKO) (60307999)	文化学園大学・服装学部・教授 (32674)	
研究分担者	高安 啓介 (TAKAYASU KEISUKE) (70346659)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	加嶋 章博 (KASHIMA AKIHIRO) (80390144)	摂南大学・理工学部・教授 (34428)	
研究分担者	朝倉 三枝 (ASAKURA MIE) (90508714)	フェリス学院大学・国際交流学部・准教授 (32711)	
研究分担者	三木 順子 (MIKI JUNKO) (00283705)	京都工芸繊維大学・デザイン・建築学系・准教授 (14303)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	永田 靖 (NAGATA YASUSHI) (80269969)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	大阪大学副学長として多忙で十分な時間を本科研基盤研究に使えず、本科研の経費も使用できなかった。但し、同研究科の別な研究分担者の研究に助言するなど、研究分担者としての協力は有意義であった。
研究 分担者	塚田 耕一 (TSUKADA KOICHI) (00171968)	杉野服飾大学・服飾学部・教授 (32628)	